

Unit 15 関係詞

花瓶に一輪のバラが生けてあるという状況を英語で表現してみましょう。ただの「バラ」だと a rose でよいでしょう。でも、「甘い香りの白いバラ」といいたい場合には、形容詞を使って、a sweet-smelling white rose と表現するでしょう。そして、「花瓶に入った甘い香りの白いバラ」だと a sweet-smelling white rose in a vase と表現します。日本語表現と英語表現を比べてみてください。

| | | | | |
|------|---------------------------------------|-------|----|----|
| 日本語： | 花瓶に入った | 甘い香りの | 白い | バラ |
| | → | → | → | ☆ |
| 英語： | a sweet-smelling white rose in a vase | | | |
| | → | → | ☆ | ← |

違いがわかるでしょう。日本語の場合には、「バラ」が最後に置かれ、どんなバラかを説明する修飾語が前から「花瓶に入った」「甘いかおりの」「白い」「バラ」のように追加されています。

一方、英語では、「花瓶に入った」に当たる in a vase が rose の後に置かれています。正確には[a sweet-smelling white rose] に in a vase が追加されていると考えるのが正しい説明ですが、ここでは、英語は、後から情報を追加することが可能な言語だということだけを理解しておいてください。

関係節は、「関係代名詞+情報追加内容」という表現になっており、関係代名詞は、先行する名詞情報（「先行詞」と呼ぶ）に後から情報を加える（後置修飾）というシグナルになります。

関係詞はうしろから情報を追加するシグナル

以下の例を見てください。

a sweet-smelling white rose which was in a vase
(花瓶の中にあった、甘い香りの白いバラ)

a sweet-smelling white rose which will be put in a vase this afternoon
(今日の午後活けられる甘い香りの白いバラ)

a sweet-smelling white rose までで「甘い香りの白いバラ」ということだとわかります。次に、which があると、関係節が続くというシグナルになり、先行詞の a sweet-smelling white rose の説明が行われることが予測できます。which was in a vase だと「花瓶の中にあった」という情報が加わり、which will be put in a vase this afternoon だと「今日の午後花瓶に活けられることになる」という情報が加わります。

which と who

関係代名詞の代表的なものといえば、which と who です。which は a sweet-smelling white rose のように人以外の先行詞の場合に使い、who は先行詞が人を表す場合に使います。which は「どれかわからないときに使う言葉」で、who は「誰かわからないときに使う言葉」です。だから疑問詞なのです。関係代名詞だって同じです。話し手や書き手がかもって情報を加える必要があると判断しているからこそ、関係代名詞を使うのです。

だとすれば、関係代名詞の which は、先行詞を示しておいて、さらに「どれってそれは～」といった感じで情報を導入するはたらきをすると考えるといいですね。例えば、次の文をみてください。

I want to buy a computer which is not expensive.

(高くないコンピュータを買いたい)

I have a dog which does funny tricks.

(変な芸をする犬を飼っている)

I want to buy a computer で「コンピュータを買いたい」となりますが、どんなコンピュータかまったくわかりません。そこで which is not expensive を加えることで、「どれってそれは高価でない(やつ)」ということがわかります。どんなコンピュータでもいいというわけではなく、「高価でないコンピュータ」というふうに限定されてくるのです。

who の場合にも同じで、I want to meet someone who has a large house [who is sweet and funny]. だと、「誰かに会いたい、誰ってそれは大きな家を持っている人/誰ってそれは優しくておもしろい人」のように、who は先行詞の someone についての情報を追加するということのシグナルになっているのです。実際、someone who... のように先行詞が someone になる用例は多くみられます。

関係代名詞と関係副詞の違い

関係代名詞が先行詞と節を関係づけるはたらきと代名詞のはたらきを併せ持っているように、関係副詞も先行詞と節を関係づけるはたらきと副詞のはたらきを併せ持っています。

ここでいう副詞の機能とは、先行詞が「場所」「時」「理由」の副詞情報を担うため、関係詞もその副詞情報を受け、ということです。関係詞が代名詞か副詞かの違いは、次のように説明することができます。

関係副詞

That is the village. + I was born there. < there は副詞 >

That is the village where I was born ▲.

(▲の位置にはあったthereが省略され、関係副詞whereがvillage とI was bornを結ぶ)

関係代名詞

That is the village. + I like it. < it は代名詞 >

That is the village which I like ▲.

(▲の位置にあった itが省略され、関係代名詞 whichが villageと I likeを結ぶ)

同じthe village でも一方はthere、他方は it で代用されます。thereは副詞であり、it は代名詞（名詞の代用表現）です。there は副詞なのでこれを関係詞で表すと「関係副詞」に、it は代名詞だからこれを関係詞で表すと「関係代名詞」になります。

時間を表す先行詞に情報を追加する際には when によって関係詞節を導入します。基本形はthe day [time] when... (……の日 [時] を～) です。

Do you remember the day when we first met?

(ぼくらが初めて会った日を覚えているかい?)

It happened at a time when I was living alone.

(それはぼくがひとりで暮らしていたときに起こった)

理由を表す why と方法を表す how

理由と方法に関する関係副詞の場合は、This is why... のように構文的に慣用化されています。why では「理由」の先行詞に情報を追加することでthe reason why という言い方が可能ですが、how には「方法」

の先行詞に情報を追加するという表現 (the way how) はありません。

▶ why

This is why we didn't get married.

(このようなわけで私たちは結婚しなかった)

That is the reason (why) they accepted our offer.

(そのようなわけで、彼らは私の申し出を受けたのだ)

▶ how

This is how we broke up.

(こんなふうに私たちは別れた)

That's the way I usually approach exams.

(ぼくは普通そんなふうに試験に臨む)